

2 年 2 組 道徳科学習指導案

授業者 清水 まゆみ

1 主題構成表

主題名 命を守る

資料名 ハムスターの赤ちゃん

■ 内容項目 D 生命の尊さ
生きることのすばらしさを知り、
生命を大切にすること。

■ 価値の分析
・低学年では、命の尊さを、知識としてよりも命そのものを実感させていく必要がある。「命は大事か」と問えば「大事」と答えることは明白であるが、どうして大切なのかと問うと返答しづらい。子どもたちの実態に即し、身近な動物の生命を通して、生命の尊さについて考えさせたい。
・また、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で、生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。当たり前で見過ごしがちな「生きている証」を実感させ、自分の誕生や家族の思いなどから、自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにする。

■ 内容項目から見た児童の実態（意識）
・1年生から動植物を育ててきており、その変化に驚いたり、素直に感動したりしてきている。家庭でも身近な生き物に関わって生活している児童が多い。しかし、興味・関心はあるが、生命を大切にしようとする体験は少なく、興味・関心がなくなれば、世話を忘れてしまう。
（要因）
・生き物の誕生や死を見る体験をした子が少ない。生き物の世話も、家族や周りの人に手伝ってもらって行うことが多く、全ての場面で生き物に関わっていることはない。
・子ども達にとって、大きくなることは当たり前のことあり、「自分は今、生きている。」と感じることは、実際の生活の中ではほとんどないと思われる。

■ 資料の分析
ハムスターの赤ちゃん
・この資料は、生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんが母親に大切に守られて成長する様子を見守る側から語るという形をとっている。生まれたばかりの時、お母さんが赤ちゃんを新しい巣に運ぶ時、生まれてから10日たった時の赤ちゃんとお母さんの様子が3枚のイラストとともに書かれている。
・生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんがお母さんに世話されながら、すくすくと成長する様子を見守っている主人公を児童自身に重ね合わせて、その気持ちを考えさせるようにする。そして、生命のすばらしさやたくましさを感じ取らせるとともにその生命が周囲の人に大切に守られていることにも気付かせる。ハムスターの成長から、自分の成長についても考えさせ、そこから、自分の命も大切にしていこうとする心情を育てるようにする。

■ ねらい

身近な生き物の命も自分の命も周りの人たちに守られて誕生し、成長していることに気付き、生き物の命を大切にしようとする心情を育てる。

■ 展開の構想

・ハムスターのビデオを見て感想を発表させハムスターを思い浮かべることができるようにする。
・ハムスターのお母さんは、赤ちゃんにどんな世話をしている、その時どんな気持ちか、考えさせる。
・10日でこんなに大きくなった赤ちゃんに、どんなことを話したいか、考えさせる。
・自分が生まれた時、お家の人は、どんな気持ちだったか、考えさせる。
・ゲストティーチャーの話から、双子の赤ちゃんの誕生と成長からも、命について考えさせる。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

○[中心発問]「ハムスターの赤ちゃんにどんなことを話したいですか。」という問いで、成長していくハムスターの赤ちゃん達を励ますような発表ができるようにする。
○[表現活動]ハムスターを見守っている人になって、ハムスターに声をかける役割演技をすることで、多様な友達の励まし方に気付く。
○[学習形態]事前に家の人から、自分が生まれた時の様子や気持ちについて聞いてきたこと（「あなたが生まれたときの話を、家の人に聞いてきましょう。」を活用）を発表させ、自分も大切に守られていることに気付かせる。
○[学習形態]保護者の方をゲストティーチャーとして招き、赤ちゃんが生まれてくるまでの思いや生まれてからの成長の喜び、これからの願いについて話していただき、命を大切にしようという心情を深める。

■ 道徳科と他の教育活動との関連（補充・**深化**・統合）

生活「ザリガニと遊ぼう」→生活「冬野菜を育てよう」→道徳科「命を守る」→生活「明日に向かって」野菜の世話をしたり、自分の成長を振り返ったりすることで気付いた生き物の命を大切にすることについて改めてじっくり考えることを通して、生命の尊さの意味やそれと自分の関わりについて一層考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	ハムスターを思い浮かべることができる。 - これは何かなあ、どう思いますか。 - ハムスターだ、かわいいなあ。 - さわってみたいなあ。	ハムスターの写真を見て感想を発表させ、ハムスターを思い浮かべることができるようにする。
展開 前 段	「いのち」とは何か、考えよう。 資料「ハムスターの赤ちゃん」を聞いて話し合う。 - ハムスターの赤ちゃんの話を聞いて、どう思いますか。ハムスターの赤ちゃんやお母さんがすごいなあと思うところはどこですか。 ハムスターの赤ちゃん - 生まれたばかりは、とっても小さい。 10日たつと、毛が生えて、1匹1匹違う背中の模様が分かる。かわいい、あくびもする。 ハムスターのお母さん - 赤ちゃんを口にくわえて、巣に運んでいる。大事なからものを守っているみたい。 - お母さんのおなかにたくさんの赤ちゃんがくるまっている。 10日でこんなに大きくなったハムスターの赤ちゃんにどんなことを話したいですか。 - すごいなあ。 10日でこんなに大きくなるなんて、びっくりしたよ。 - お母さんみたいに大きくなってね。 - これからも元気に育ってね。がんばってね。 - お母さんが、大切にしてくれるから、大丈夫だよ。 - 小さな命でも、大切にされてきたんだね。	- ハムスターの写真を見せ、実物の赤ちゃんの大きさを知らせ、その小ささやか弱さを感じ取ることができるようにする。 - 子ども達の意見を、「生まれた時」、「新しい巣に運んでいる時」、「10日たった時」の3つに分けて、それぞれの時の赤ちゃんとお母さんの様子が分かるように板書に位置付ける。ハムスターの子どもがもつ命のすばらしさと、子どもを大切に思うハムスターのお母さんに共感して考えるようにする。 - 成長していくハムスターの赤ちゃん達を励ますような発表ができるようにする。 - 児童が、ハムスターを見守っている人になって、ハムスターに声をかける役割演技をすることで、多様な友達の励まし方に気付くようにする。 - ハムスターの赤ちゃんの成長を通して感じる生命のすばらしさ等について考えるようにする。
展開 後 段	- みんなも、ハムスターと同じかなあ。家の人に書いてもらった自分が生まれたときの話を読んで、どんな気持ちですか。 - ぼくが生まれたとき、お母さんはうれしくて、なみだが止まらなかったと書いてあって、ぼくもうれしい。 - 何時間もかかって生まれてきたことを知って、命は大切だと思った。 - 家族のみんなが、ぼくが生まれてきたことや大きくなっていくことをとても喜んで見ていてくれることが分かって、うれしい。	- ハムスターの誕生や成長を自分と比べて、命について考えることができるようにする。 - 自分が生まれた時の家の人の思いを事前に「わたしたちの道徳」P91に記入してもらっておく。自分の誕生を喜んでくれたことや自分の命もかけがえのないものであることを実感できるような記述をしていただけるようにする。
終 末	学習のまとめをする。 - ゲストティーチャー（KさんとSさんのお母さん）の話を聞いて、どう思いましたか。 - 今日学習して、どんなことを思いましたか。命について考えたことについて書きましょう。	- 生命が誕生した時の喜びや、感動、思いを保護者に話してもらうことにより、動物の命も自分の命もかけがえのないものだと感じられるようにする。 - 道徳ノートに自分の考えを書かせる。 - 変容の見届け - ハムスターも自分も周りの人たちに守られて、誕生し成長していることに気付き、命は大切だという気持ちをもっている。

2年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
D 生命の尊さ	生活	ザリガニとあそぼう		
	生活	冬やさいをそだてよう		
	道徳	ハムスターの赤ちゃん		
	学活	生活を見直そう		
	生活	明日に向かって		
	日常	教室の花		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除の様子		
	日常	給食の様子		
	日常	教室の過ごし方		
	日常	時間行動		
	家庭	1家庭1ボランティア など		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 D 生命の尊さ

道徳の授業 ・成長していくハムスターの赤ちゃん達を励ますような発表することができたか。
 ・ハムスターも自分も周りの人たちに守られて、成長していることに気付き、命は大切だ
 という気持ちをもつことができたか。

日常生活(登下校、給食など)
 ・安全や健康に気を付けて生活し、命を大切にして生活することができる。